

---

## 【三題噺】兎の少女は動き始める

うるる

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

【三題噺】兎の少女は動き始める

### 【Nコード】

N1337W

### 【作者名】

うるる

### 【あらすじ】

「文学少女」シリーズより三題噺

お題は【携帯電話】【宮殿】【ウサギ】  
ウサギと少女と僕と。

お題【携帯電話】 【宮殿】 【ウサギ】

突然鳴りだした携帯電話。

そして対応する間もなく言われた電話の向こう側の誰か。

「山田太郎様、あなた様を宮殿へご招待する準備が出来ました。どうぞお越し下さい。」

勿論、私は”山田太郎”ではないし、ありきたりな名前から偽名であることも分かる。

そして何か言葉を発する前に通話が終了した携帯電話を見ながら、ただのイタズラ電話だろうなと思い、無視しようと決めた。：かった。

目の前にウサギが現れるまでは。

明らかにここにウサギがいるのはおかしい。しかも私をじっと見ている。

ついて来なさい。

そう言っている様な、気がした。

こういう時は顛末が良くても、悪くてもついては行かなくてはならないのだろうと直感的に思った。

そうして私は小さくて白いウサギの背中を追いながら歩いていくことにした。

どのくらい歩いたのか、時間が分からない。

どれだけ歩いたのか、距離が分からない。

なぜ歩いたのか、理由が分からない。

でも、やっぱり宮殿に着いてしまったのは言うまでもない。

歩けば歩く程見慣れない光景が見え、どんどんと殺風景な景色に変わっていった。

緑色が黄土色に変わり、黄土色が灰色に変わり、変わり切ったなと感じたところでウサギは止まった。

ウサギの背中から見上げるとそこに佇んでいたのは灰色に浮かぶ金色の宮殿だったのだ。

ホントにあっただ、宮殿。

私はそう思いながら視界を徐々にクローズアップさせる。

ウサギが再び走りだす。そして向こうには一人の小さくて可愛らしい少女。

ウサギは少女に飛び込む。少女はそれをゆっくりと受け止める。

「ねえ、私の王子様にならない？」

少女はウサギを抱き締め、ふと可愛らしい笑みを溢しながら誘う。

一瞬その可愛さにたじろいだるが、

「…何の利益があるんですか？」

私は表情は動かさず、恐る恐る尋ねた。

「あなたはこの宮殿で自由に過ごし、富も名誉も貰えるのよ？」

「…あなたの利益は？」

「私も王子様がいることでこの国を繁栄させることが出来るの。素敵だと思わないかしら？」

その為なら”誰とでも”良かったのだろうか、この私じゃなくても、誰とでも。

少なくとも彼女の口からはそう聞こえる。ならば余りにも寂しい。

私は携帯電話を取り出し、リダイヤルを押す。勿論、直前に電話したあの電話へ。

すると少女のウサギが震えだす。もしかやウサギが携帯電話なのか。

少女はウサギの頭を撫でると、ウサギの震えは止まった。そして喋り出す。

「はい、もしもし。」

僕は携帯電話に喋る。

僕は目の前の少女に喋る。

「あなたとは違う世界で会えたら、きっと良い友達になっていたよ。もしかしたら私はあなたに本当に恋したかもね。けれどもこの世界のあなたは正しい歪み方をしていない。」

一息置いて、もう一言。

「宮殿を去る決心がついたので、帰り道のご案内をお願いします。」

すると少女は少し悲しげな表情を、今にも泣きそうな表情を浮かべながらこちらを向いた。

そんな顔も可愛いと思う私は悪魔かなあ、と思ったりもした。

「そう…残念ね…」

その少女は本当に落ち込んでいるみたいだった。それだけは本当みたいだ。

「いや、私はまたあなたに会える気がしますよ。だからその時まで、また。」

そう私は言つと、また私の元にやって来たウサギの後を追いつながら、元の場所へと帰る事にした。

”着信履歴を消去しますか？”

”リダイヤルを消去しますか？”

”はい”

そんな気がした。ただ、それだけだよ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1337w/>

---

【三題噺】兎の少女は動き始める

2011年10月4日22時16分発行